

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2008年10月20日

第 307 号

「三方原スクエア」 の名称に託す思い

理事長

稲松義人

三方原スクエアは、法的には、児童福祉法の知的障害児施設、障害者自立支援法による障害者支援施設（生活介護＋施設入所支援）とが合築になっている社会福祉施設です。実際には、これまでの小羊学園児童寮、小羊学園青年寮の働きを引き継ぐことになりませんが、今回の移転を機に、戦後の福祉施策の中心であった「収容保護」の色濃い福祉施設から、目的の利用と地域交流を基調にした福祉施設への転換を意識しました。

「スクエア (square)」は、もともと正方形、四角という意味があり、よく街の中の四角い広場や、四方を街路で囲まれた一区画（街区）をスクエアと言います。今回の新しくなった建物の構成からしますと、中央に地域交流棟「コミュニティホール」があり、それを囲むように居住棟（そだち、のぞみ、むつみ、みのり、なごみと呼ばれる五つの家）があります。

これを機に行政等に登録される知的障害児施設としての施設名は「三方原スクエア児童部」に、障害者支援施設の名称としては「三方原スクエア成人

部」と変更することにしました。入所する人が住民票を施設の住所に写す時に、今までは、「・・・細江町中川七四四〇番地の一 小羊学園」となりましたが、これからは「・・・三方原町二七〇九番地の一二 三方原スクエア」となります。住所だけで施設に入所している印象をもたれないと思います。居住棟は、終の棲家ではないにしても暮らしの場、居住の場ですから、公共のスペースではありません。入居者のご家族、親しい人、継続して交流してくださる人は大歓迎ですが、多くの人々が自由に出入りすることは避けたいと思います。

しかし、コミュニティホールは公共の場として設定したいと思っています。スクエアに住む人が日中の活動のために通ってくるスペースもありますし、そのときに昼食をするための食堂もあります。会議室、面接室のほか、自由に歓談ができるフリースペースもあります。数名ならば外部からの人が宿泊できるスペースもあります。

スクエアの内外から、日中活動に通ってくる人たちは、通常月曜日から金曜日の午前九時から午後四時くらいまでが活動時間となりますので、それ以外の時間や、週末や祝日については、コミュニティホールは他の目的で使いやすくなります。

土曜日の午前中に継続してきた「教会学校」も、コミュニティホールでの定

期的なプログラムになります。他に、中道先生の絵画教室なども、週末の余暇プログラムとして位置づけられますので、興味のある人、やりたい人は、可能であればスクエア内外から参加が あってよいと思っています。

また、スクエアにつながる地域での共同生活介護事業として、温心寮、あゆみホーム、ひだまりの三つの住居があります。ここに住む人たちも、外に通う数を除いて、日中活動はスクエアに通うことになりませんが、週末は自由に計画して過ごしてよいと思っています。

施設の定員としては、児童入所二〇名、成人入所三〇名、短期入所は児童成人全体で一〇名、温心寮など地域ホームの入居者は三箇所で一五名ということになります。名称から来る印象も実際の生活も、地域での暮らしに近いものになれば、と思っています。

「小羊学園」の名称は、私たちのルーツとなる名称です。これからも、小羊学園から分かれた「支援センターわかぎ」や「つばさ静岡」での事業も含め、「社会福祉法人小羊学園」として受け継いでいきます。「小羊」は「小さい者のひとり」を大切にすると創立者の精神を伝えていきますし、「学園」という表現から、小羊学園がこどもの施設として創立されたことを知ることができます。これからも、児童期から生涯にわたって支援を必要とする人たちを中心に福祉事業を展開したいです。

三方原スクエアのみどころ

三方原スクエアには、中央に地域交流棟（コミュニティホール）があり、それを囲むように、五つの居住棟があります。知的ハンディのある人たちを支援するための施設ですが、居住棟は一般住宅のように、サービス機能のある建物は公民館のようでありたいと願っています。

地域交流棟（コミュニティホール）

玄関ホールを入ると定礎板があり、そこに、小羊学園の創立者山浦俊治先生のことは（著書のタイトル）を記しました。これは私たちが創立の心を忘れないように記念するためです。



玄関ホールから入ったところに、交流スペースをつくりました。三方原スクエアを訪ねてくださる方たち、利用者、職員が交流できる楽しいフリースペースを作っていきたいと思っています。



早々と自販機が入りましたが、テーブルや椅子がまだ揃っていません。ここでお茶を飲みながら歓談できるといいなと思っています。



コミュニティホールの中央にある中庭に面して、面接室、会議室、食堂があります。庭の中央にもみの木を植えました。クリスマスにはシンボルツリーにするでしょうか。



日中活動のためのスペースは、大きく三つに分けて、広めに作りました。陶芸、おやつ作りなどにも取り組みやすい設備もつくりました。和室もあります。食堂との間の仕切り壁を開けると広いスペースになり、大勢が集まる行事などにも活用できます。



コミュニティホール内の洗濯室と、それに続く衣類整理室でのお手伝いは、地域ホームに住む人たちの日中活動の一つです。ここをお手伝いください。ボランティアの方々に、ご奉仕の場所にもなります。



エア全景

居室棟（入所・短期入所）

五つの居住棟には、のぞみの家、そだちの家、むつみの家、みのりの家、なごみの家という愛称をつけました。それぞれの棟には二つずつユニットがあり、それぞれに玄関があります。



居室はすべて個室か二人部屋です。五〜六人のユニット毎で食事ができるようそれぞれにリビングダイニングがあります。



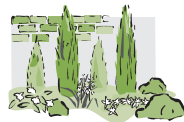
三方原スク

給食室には、居室棟の各ユニットへ食事を運ぶワゴンが並んでいます。朝夕と日中活動のない日の昼食はユニット毎にします。コミュニティホールで日中活動をする人は、給食室に隣接した食堂で昼食をします。



夜間等にナースコールの代わりに、必要に応じて、部屋毎の様子を察知できるように、各部屋に集音設備がついています。音を拾うと職員スペースにある報知板と、館内携帯電話の受信機で情報を得ることができます。

職員動線・サービス動線は、コミュニティホールに繋がっており、夜間および緊急の時には各棟を行き来することができるようになっています。



スクエアの周りには、地域社会です。自然な交流ができれば嬉しく思います。徒歩であれば、スクエアの中を通り抜けることもできます。活動のない日はコミュニティホールの活動室も空いています。地域の人たちに活用してもらえるといいなと思っています。



近くにお越しの際は気軽に立ち寄り下さい。(前もってお電話いただけると助かります。) 特別の場所という福祉施設のイメージを変えられることができます。嬉しいです。



三方原スクエア オープンハウス (竣工見学会)



皆さん、お誘いあわせのうえ、
ぜひお立ち寄り下さい。

お茶とお菓子を用意して待ってま～す。

①11月22日(土) 午後1時～4時

②11月23日(日) 午前11時～午後3時

先着50名様にささやかなお土産プレゼント!

お問い合わせ:三方原スクエア (053) 414-1833

三方原スクエア・ボランティア大募集

あなたも知的ハンディのある人たちとともに、
コミュニティ再生プロジェクトに参加しませんか。

①日中活動のお手伝い

月～金の日中、スクエアで行なうグループ活動
(散歩の介助、作業活動等の介助)

②土曜・日曜の余暇支援

各棟に入居する人たちの週末の生活(外出、余暇
プログラムのお手伝い)

③各ユニットの夕方のお手伝い

5～6人が生活するユニットで、支援スタッフが
夕食、入浴の介助で忙しい時間、入居者と過ごし
てもらう。(一人暮らしの方、宜しければ夕食提供
します。)

いずれのボランティアについても、面談の上、具体
的に説明し、相談させていただきますので、安心して
ご連絡下さい。三方原スクエア TEL (053) 414-1833

継承していくことは、すべての組織
の課題であろう。そのまま踏襲するだ
けでは時の流れの中で不適応を起す
だろうし、目新しいことだけを追うと
気がつかないうちに大切なものを失う
ことになりかねない。小羊学園は新し
い一歩を踏み出した。しかし、小さい
単位での生活は、故山浦俊治氏も望ん
でいたことであり、地域に開かれた施
設づくりは小羊学園の開園時から
の姿勢であった。その意味からは何も新し
いことを始めたわけではない。つづ
えの編集も継承を模索したい。皆さま
の声もお聞かせください。(I)

編集後記

小羊学園を支える会総会 を開催しました

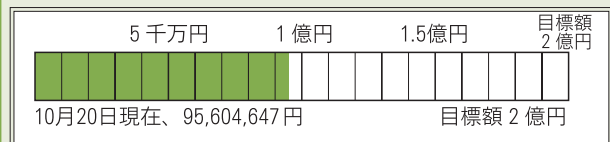
先につのぶえにて公告いたしました
とおり、去る八月三〇日(土)午後一
時半より、遠州栄光教会三方原会堂集
会室にて、二〇〇八年度の小羊学園を
支える会の総会をいたしました。出席
者は二五名。支える会報告(つのぶえ
号外)を資料にして前年度の寄付金等
の実績報告があり、支える会の規約の
確認をし、その後、支える会の役員と
して、小林眞さん(日本基督教団遠州
教会牧師)、大月美保子さん(小羊学
園奉仕者、うたの会の先生)、宮谷百
合子さん(小羊学園奉仕者、西静分区

婦人会)、古橋克己さん(小羊学園理
事)、田中清司さん(小羊学園家族会
会長)、稲松義人(小羊学園理事長、
池谷慎人(事務局担当・法人事務セン
ター長)を選出いたしました。また、
山浦明子さんが亡くなられた後、空席
になっていました小羊学園を支える会
代表に、遠州教会牧師の小林眞さん
になっていただくことになりました。総
会後、三方原スクエア予定地に移動し、
定礎式を行いました。定礎板には、
山浦俊治氏の著書のタイトル「この子
らは光栄を異にす 山浦俊治1926-
1994」と記されており、新しい施
設においても、創立の精神を継承する
ことを心に刻むことができました。

小羊学園移転計画

様々な予想しない状況におかれ、困難と思われ
た小羊学園の移転計画でしたが、ほんとうに多くの
皆さまが、親身になって応援してくださいましたお
陰で何とか、成し遂げることができました。借入
金の返済は、今後20年続くこととなりますが、
これからも力を合わせて頑張っていきたいと思
います。ありがとうございました。また、これか
らもよろしくお願いいたします。

小羊学園理事長 稲松義人



これからもどうぞ小羊学園をご支援下さい。

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415

りそな銀行浜松支店 (普通) 040005

静岡銀行細江支店 (普通) 043483

必要があれば、募金のお願い(振込用紙)を、
お送りいたします。下記へご連絡ください。

問い合わせ先: 小羊学園 法人事務センター

〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7440-1

電話 053-420-0830